

《郷土再発見》

第四話 「遠き日の勇者の物語」

おおももべのはかま  
大伴部博麻と志賀島の荒雄  
あらか

◆六六三年 「白村江の戦い」と大伴部博麻  
はくそんこう おおももべのはかま

ここでは郷土の二人の人物についてお話します。ともに今から千年以上前に生きた人です。皆さんには実感がわきにくいかも知れませんが、忘れてはならない人です。遠い過去の時代の人であっても、わたしたちの胸をうつつ生き方はあるのです。

まず、大伴部博麻おおももべのはかまという人から紹介しましょう。

この人について書かれている昔の史料は『日本書紀』というものです。たいへん古い史料で奈良時代の七二〇年につくられました。このなかにわずかですが、大伴部博麻おおももべのはかまの記述が出てきます。それ以外には史料はありませんから貴重なものです。

ここではこの史料から読み取れる内容を中心に博麻はかまの人となりきょうせきと業績きょうせきにふれてみることに